



広島研修



広島研修から学んだこと

十四山中学校 近藤 はな

【広島】

8月6日8時15分、広島に原爆が落とされました。原爆によって亡くなった人は約14万人にも及び、それはとても驚異的なものでした。爆発や放射能、建物の崩壊などで多くの人々が苦しみ、命を落としてしまったのです。世界で初めて原子爆弾が落とされた広島。そこで私たちは、8月6日に起こってしまったことを通して、戦争とは何か、平和とは何かを学ぶことができました。



【楳山ヒロ子さんの願い】

今ではとても痛々しい原爆ドームですが、かつては広島市民が行きかっていた活気のあるデパートのようなものでした。しかし原爆投下後、変わり果ててしまった原爆ドームは、大切な家族を失った広島市民にとって心を暗くさせるものでした。「原爆ドームを見たくない、壊してほしい」そんな声も多く上がりましたが、ヒロ子さんの思いは違いました。ヒロ子さんは、「もしこの原爆ドームが壊されたら、大人たちが再び戦争を起し、罪もない子どもたちが亡くなるだろう」と手紙を残しました。そしてヒロ子さんの考えを後押しするように同級生が署名活動を始め、子どもから大人へ、考えが変わっていきました。

【広島研修からつなげる平和】

しげるくんの弁当箱の他にも、とても印象に残る展示物や資料がたくさんありました。原爆によって後遺症をもった方々の写真や多くの遺品が、原爆と戦争の悲惨さを物語っていました。ですが、世界では核を持っている国がまだまだ多数あります。それに、戦争や紛争も、いまだになくなっておらず、たくさんの人たちが家族を失い、つらい思いをしています。これは日本にも無関係ということはありません。北朝鮮のミサイル問題など、いつ戦争が起ってもおかしくない状況にあります。二度とあんなことが起きないように私たちはもう一度平和について考え、守っていかなければなりません。

平和学習を終えて

十四山中学校 向井 智慶

【平和記念公園を訪れて】

1945年8月6日8時15分、広島に一つの原子爆弾が落とされ多くの尊い命が失われました。この原子爆弾は600メートル上空で爆破し、地上を3000度の熱が襲い、原爆ドームはその影響を直接受けました。原爆ドームはもともと広島県物産陳列館という県の物産品の展示や販売を行っている場所で、ベンチなどで人々が休む、憩いの場となっていました。天井は溶けて柱が吹き飛び、今のような恐ろしい姿になってしまいました。それから何年も放置されていましたが、原爆のことを後世に伝えていくために残してほしいという声が高まり、今も大切に保存されています。



【平和記念資料館で学んだこと】

平和記念資料館では特にしげるくんの黒こげになった弁当箱が印象に残っています。この弁当箱は、しげるくんを探しに来た母親のシゲコさんが、遺体の下から見つけたものです。弁当箱の中には畑で初めてとれた野菜が入っていましたが、食べることはできませんでした。他にも原爆によって亡くなった子どもたちの三輪車や服、水筒などの遺品が展示してあり、自分と同じくらいの子供たちが大勢亡くなったと知り、衝撃的でした。また、折れ曲がった自転車や溶けたガラスなどは原爆の恐ろしさを物語っていました。

【感想・心に残ったこと】

今回の広島研修で原爆ドームや多くの写真、絵などの資料を見たことで、さらに戦争についての知識が深まり、戦争は二度としてはいけないという気持ちが強まりました。戦争のことを後世に伝えていくには、まず知ることが大切だと思いました。特にしげるくん弁当など、子どもたちの遺品を見たことで、大勢の子どもたちが亡くなったことを知り、なぜ戦争には関係ない子どもたちが死んでしまったのか、不思議に思いました。何も生まない戦争を二度と起こさないためには一人一人が戦争について知り、この悲劇を忘れずに心に留めておくのが大切だと思いました。

図書館だより

市役所図書館 ☎65-1117



ホームページ



X

新しく入った本

図書名	筆者名など
●おとなの大ピンチ図鑑	おとなの大ピンチ研究会
●江戸時代の暮らしと文化の絵事典	安藤 優一郎
●PATRIOT	アレクセイ ナワリヌイ
●知っているようで知らない物価のしくみ	斎藤 太郎
●婚活マエストロ	宮島 未奈
●知っておきたい子どもの権利	鴻巣 麻里香
●晴れ、ときどき雪	小手鞠 るい



水の一生図鑑
林 良博/監修



おかず鍋
吉田 愛/著



雫
寺地 はるな/著

図書館では、幅広い年齢層に楽しんでいただけるよう、資料の貸し出しだけでなく、読書会やボランティアによる読み聞かせを行っています。

よつば読書会

- と き 2月8日(土)午前10時～正午
- と ころ 弥富まちなか交流館
2階ミーティングルーム
- テキスト 「滅びの前のシャングリラ」
(風良 ゆう/著)
- 内 容 1冊のテキストを会員同士で読み、意見や感想を述べあいながら、読書の領域を広げていきます

おはなしの会

- 対象者 幼児～小学校低学年向き
- と き 2月1日(土)【わらべ】
午後3時～3時30分
2月15日(土)【おはなしくまさん】
午後3時～3時30分
- と ころ おはなしのへや(図書館内)
- 内 容 絵本や紙芝居の読み聞かせ

- 対象者 乳幼児向き
- と き 2月22日(土)【たんぼぼ】
午前10時～10時30分
- と ころ おはなしのへや(図書館内)
- 内 容 絵本やわらべうたによる親子の触れ合い

■開館時間 火・水・木・金曜日 午前9時～午後7時 土・日曜日、祝日(月曜日を除く) 午前9時～午後5時

ガイドボランティアが体験した

伊勢湾台風

伊勢湾台風から令和6年9月26日で65年が経過しました。このコーナーでは、現在ガイドボランティアとして活躍しているメンバーの被災体験を紹介します。

⑥ 様変わりした故郷

午後9時半ごろにサイレンが鳴り、消防団の方に堤防が切れたので避難するよう言われ、家族で南部保育園(現在の竹長押茶屋の位置)に避難した。翌日、両親に内緒で木曾川の堤防まで様子を見に行ったら、弥富側の堤防は切れていなかったが、長島や木曾岬は一面水に浸かっていた。後日、流れ着いた遺体を大人たちが並べて穴を掘って火葬していた。

その後は自衛隊のジープに乗せてもらい、木曾川の堤防沿いにずっと北上して、祖父江(現稲沢市)で家族と合流して長野県の祖父の家に疎開した。現地の学校に2カ月半通ったが、友達もできて遠足など楽しい思い出もできた。弥富に帰るときはお別れがさびしくて泣けてくるほどで、弥富に帰った後も友達と文通をした。

弥富に帰宅すると、周囲の風景がすっかり変わっていた。両親は干潮のときに家に荷物を取りに行ったり片付けをしたりして、潮が満ちてきたらまた避難して、大変だったと思う。後に同級生と自転車に乗って鍋田干拓の様子を見に行ったら、すっかり水が引いて3階建ての復興住宅ができていた。

現在はガイドボランティアとして活動する中で、伊勢湾台風の体験談をお客さんや子どもたちに語り続けている。

——高橋忠、当時桜小学校5年生

